

第 54 回議会報告会 ～テーマ別タウンミーティング～

[都市建設委員会]

開催日：令和 8 年 5 月 9 日（土）

場所：中央公民館 大会議室

参加人数：10 人（内訳：会場参加者 5 人、議員 5 人）

【テーマ】「地域公共交通～ミニバスについて」

≪主な意見・内容≫

背景・目的

- 公共交通計画が今年度刷新される予定であり、市民のリアルな声を拾い上げ、今後の政策や計画に反映させていくため。

参加市民による現状の利用状況・受け止め

- 通勤や通院で利用している市民がいる一方で、時間がかかるため天候（雨天時など）や体調に合わせて徒歩と使い分けているケースも見受けられる。
- 行政や委員会で詳細な利用データ（乗降客数など）を集めて研究していることは評価しつつも、実際の利用者目線ではまだ不便さが際立っているという受け止めが多い。

参加市民が考える課題

- 経路・所要時間

- 目的地まで非常に時間がかかり、遠回りになってしまう。車であれば 15 分で行ける距離に 50 分を要するケースがある。
- 循環路線のため、行きと帰りでルートが異なり（帰りが大回りになるなど）、使い勝手が悪い。

- **時刻・頻度**

- 絶対的な本数が少ない。
- 1 時間に 1 本というような規則的な間隔ではないため、時刻表が覚えにくく利用しづらい。
- 時刻表通りにバスが運行されないことが多く、乗り継ぎたい電車の時刻に間に合わないなど、他交通機関への接続が悪い。

- **バス停の場所**

- 市は 500m 以内にバス停を設置するという基準を持っているようだが、実際にはバス停まで遠い（1km 近く歩く）地域が現に存在している。

- **乗車体験**

- 過去（10 年ほど前）に、降車時のトラブル等で運転手から大声で怒鳴られ、非常に不快でショックな思いをしたという声があった。
- ※ただし、現在の運転手のほとんどは安全に配慮した素晴らしい接客をしているとのフォロー意見も多数出された。

- **利用対象の幅**

- 足腰の弱い高齢者や障害者にとっては、バス停までの距離を歩くこと自体が困難である。ミニバス路線だけで市内全域をカバーしようとする基本方針自体に無理が生じているのではないか。

参考事例・示唆（参加者の情報）

- 過去にタクシー券制度が存在したが、「呼んでもタクシーが来ない」といった実運用上の課題があった。
- 近隣他市では、路線バスの市境での乗降ルールの工夫や、デマンド交通（乗り合いタクシー等）との連携・導入が進んでいる事例がある。
- イエローコースなど過去の路線再編時には、市民による署名活動など活発な動きがあった。

解決仮説・今後の方向性（議会・行政への要望）

- **ダイヤの見直し：** 利便性の向上とわかりやすさのため、せめて「1 時間に 1 本」の規則的なダイヤにしてほしい。
- **役割の分担と新技術の導入：** ミニバスはミニバスとしての本来の運行路線に特化しつつ、バス停まで歩行困難な方に対しては「タクシー券」や「デマンド交通（ちよいそこ等）」など、別の事業や政策展開を組み合わせるべきである。
- **コストへの配慮：** 路線拡充や新制度の導入にあたっては、赤字を増やしすぎないよう、市の財政やコスト感に十分配慮した最善の策を検討してもらいたい。
- **接遇の向上：** 運転手には、高齢者等が慌てて転倒しないよう優しい声掛けや注意喚起を行う、停留所には乗降しやすいようしっかり接近して停止するなど、引き続き温かい接客を求めている。